

## 李濟先生事略

石 璋 如

大島立子訳

李濟、字は濟之、湖北鐘祥の人。一八九六年六月二日（清光緒二十二年丙申、陰曆四月二十一日）に故郷に生まれ、一九七九年八月一日、台北の自宅において死去。八月十五日茶毘にふせられ、遺骨は暫時善導寺に安置された。享年八十四歳。

先生は一九〇三年、父翼孚公に随って北平に行かれた。一九一八年、清華大学を卒業。一九二〇年、論文「世界人口質与量的演變」でマサチューセッツ州のクラーク大学から修士の学位を、一九二三年、論文「中国人種之形成」でハーヴァード大学から博士の学位を授与された。人類学と考古学を修得した最初の中国人留学生である。時に二十六歳。

一九二三年秋帰国し、南開大学で社会学と統計学の教鞭をとられた。その年、河南新鄭で銅器が発見され、続いて人骨も出土したことを聞き、先生は早速調査に赴かれた。これが考古学の実地調査のはじめとなった。一九二五年、清華研究院の講師に任ぜられ、王国維、梁啓超、陳寅恪の諸碩学とともに講義された。同時に当研究院ではアメリカのフリア美術

館の協力を得て、先生を主任とし、考古学の実地調査を行った。一九二五年から一九二七年にわたって二回山西省夏県西陰村の先史時代の遺跡を発掘し、豊富な発掘成果をあげたが、その時に出土した蚕繭は特に貴重な発見である。『西陰村史前的遺存』が刊行されたが、これは中国考古学史上極めて重要な著書である。

一九二八年十月、中央研究院歴史語言研究所が廣州に設立され、殷虚の第一回の試掘がはじまった。当時、先生は米國にあって、フリア美術館と契約続行について話しあっておられたが、傅斯年（孟真）研究所所長はただちに電報を打ち、先生を招聘し、考古系の主任とした。年末に穗（廣州）訳者註）にもどり、次いで安陽に赴き視察された。一九二九年春、一団をひきつれ、殷虚第二次発掘作業に従事された。完了後、「小屯地下情形分析初歩」と「殷商陶器初論」（安陽発掘報告第一期）に掲載）を著し、考古学についての世人の耳目を一新させ、徒らに殷虚を発掘し、甲骨を採獲することを禁じられた。秋には第三次発掘が終了し、「十八年秋季発掘殷虚之経過及其重要發現」（安陽発掘報告第二期）を著された。この一文の論旨は明析、明解であり、殷虚発掘が更に一歩前進したことを世人に示した。この発掘の際に一片の彩陶が出土したが、この事実に基づいて「小屯与仰韶」を著され、そこで先史時代と歴史時代が一貫していることを指摘

された。

一九三〇年より、中華教育文化基金董事会の考古学講座を担当し、その後は考古学の指導に専心従事された。一九二八年から三七年まで毎年二回殷虚を発掘し、その都度豊富な收穫をあげた。彼とその同志の共通の信条は、私的に考古遺物を買ったり、私蔵したりしないことであり、発掘作業中に出土したものは、一片の陶片、獣骨といえども、またいかなる器物も全て必ず登録し、番号を付するということであった。先生は発掘終了後には、ただちに発掘状況を公表し、研究報告も随時発表すべきであると主張された。一九三〇年、山東省政府と山東古蹟研究会とは協力して城子崖と安上村を発掘した。所謂龍山文化はこれより世に知られることになる。一九三二年、河南省政府と河南古蹟研究会は協力して、辛村、山彪鎮、琉璃閣などを発掘した。何れからも重要なものが大量に出土され、周代考古学のための礎が築かれた。一九三五年春、殷虚第十一次発掘を視察している時に、西北岡東区での大批車器、西区での牛鼎、鹿鼎の発掘に立ち会われたが、これは殷虚発掘史上、未曾有の発見であった。

考古学の活動範囲が徐々に拡大されたことを認識した先生は、「安陽発掘報告」の名称では、当時の考古学の活動状況の全てを抱括し得ないと考えられ、遂に一九三六年、「田野考古報告」と改称し、出版された。それには山東、河南、熱河、

安徽など各地の考古学活動の成果を均しく抱合している。同時に、一つの遺蹟を発掘完了後、ただちに報告書を刊行し、それを中国考古報告集と称することを主張された。そこで一九三四年出版の世界的に注目された城子崖、即ち黒陶文化発掘の報告書は、「中国考古報告集一」とされ、これが最初の「中国考古報告集」となった。同年、中央博物院籌備処(建設準備所—訳者註)の主任を兼任し、南京中山門内の半山園に、中央博物院を建築するために積極的に働かれ、又中央博物院の考古発掘事業を準備された。一九三六年、安陽H一二七坑で多量の甲骨が出土した。それを聞いたのは成都に講演に行かれる前日の夕であったが、ただちに夜を徹して視察に行き、その後成都に赴かれた。先生の安陽発掘に対する関心はこのように強いものであった。同年冬、英国に講演に行き、翌年の夏の始めに帰国された。当時、国内の考古学活動は先生の指導の下にあり、まさに発展拡張の時にあたっていたが、七七抗戦が起き、一切の活動は中止され、研究所はすべて西遷して長沙に移された。

先生は政府の西遷後、一方では研究に従事され、一方では考古学の实地調査の計画を作っておられた。一九三八年、研究所は長沙から昆明に移った。先生は殷虚陶器の研究に着手し、その材質、色彩の研究をされた。蒼洱古蹟考察団を組織し、馬竜、竜泉などの遺跡の発掘を行われた。この後蒼洱文

化は世に知られるようになった。同年、英国帝立人類学研究所の名誉研究員に選出された。一九四一年、研究所とともに南溪李荘に遷り、陶器の研究を継続された。先生は、「夏いまだ亡びざるも、すでに商有り。殷いまだ亡びざるもすでに周有り」の伝統的な歴史記述を根拠とし、そこで九つの殷文化の層の中から最も平均的な陶器を選び出し、又六つの殷以前の文化層の中から最もよく見られる灰沙陶と黒陶を選び出され、「小屯地面下の先殷文化層」を著し、「殷商文化は黒陶文化の後に起り、この二つの文化の変換は革命的なものである。」と説明された。同時に、川康古蹟考察団を組織し、彭県、新津などで大量の漢化文化の遺物を発見された。一九四二年、西北史地考察団を組織し、敦煌、寧夏及び陝西を調査し、若干の重要な遺跡を発見された。一九四三年には、西北科学考察団を組織し、西北地方を研究し、漢簡と晉碑を発見された。

一九四五年、抗日戦争に勝利し、中国駐日代表団の一員として派遣され、戦時中略奪された我が国の考古遺物及び美術品を接收した。一九四六年南京にもどり、再び積極的に中央博物院の建築のために活躍された。一九四八年、第一期院士及び評議員に選出された。先生は当時の情況の下では考古学の実地調査を復活することは困難であり、今後は、屋内研究活動に重点をおかねばならぬと考え、遂に「田野考古報告」

を「中国考古学報」と改称し、実質的な内容に合わされた。此の時に先生はただちに殷代の青銅器の研究に着手された。其の不朽の大作「記小屯出土之青銅器上篇——容器的形制」及び「中篇鋒刃器」はともにこの時に完成されたものであり、先生は、古器物の研究者ともなられ、新しい研究の模範を樹立された。同時に学术界で重要とみなされる二つの活動を完成された。一つは、歴史語言研究所において、「殷虚文字甲編」を出版し、第一次から第九次の発掘から得た甲骨を全て発表されたことであり、一つは、中央博物院を完成させ、殷代最大の司戊母大鼎を展示されたことである。この鼎は、高さ一・三三メートル、重さ八七五キログラムに達し、まさに稀有の珍品である。

この年の冬、中央研究院、中央博物院、故宮の考古遺物及び美術品の台湾への輸送に立ち会い、国の重要物件を保護された。一九四九年、台湾大学に考古人類学系を創設し、第一主任となり、その規範を作り、屋内授業と屋外実習とともに欠くことのできないものであるとして重視された。又考古人類学刊を発刊し、教師、学生に研究の成果を発表させ、一般社会、及び国の内外の学界に考古学活動についての認識をひろめられた。先生の播いた種は、今では林となった。国際考古学界の重鎮となった者も多い。

一九五三年、一団を率いてフィリピンでひらかれた第八

回太平洋科学会議と、第四回遠東史前會議とに参加された。

一九五四年、米国のロックフェラー財団の援助を受け、メキシコ大学で講義をされ、一九五五年にはシアトルのワシントン大学に招かれ講演をされた。この時の講演はその後「中国文明の開始」と題して刊行された。同年夏帰国し、八月、董作賓先生の後を継いで中央研究院歴史語言研究所所長となり、考古館を建て、秘蔵されていた標本を展示し、ついで傅斯年図書館を建て、未公開の図書を開架し、研究に便宜を与えられた。一九五六年、「殷虚器物甲編・陶器」を発表し、第二回教育部国家学術文科獎金を受けられた。これは先生が特別な慧眼をもって、今までの中国の金石学とは全く異なる視点から考古学的遺物を研究されたことによる。先生は殷虚出土の二四万七五六五個の陶片、及び一五〇〇余件の完全に形を残している陶器について、各器底に分類を、各器物の口には時代を記された。鬲底、平底、圜底、三足、四足及び蓋の六種に分類し、考古遺物研究のために新しい尺度を設けられた。

一九五七年、ハーヴァード燕京大学学士会は資金を援助して中国東亜学術計画委員会を設立し、学術研究を奨励することになり、先生はその主任委員に選出された。同年十月、中央研究院の院長朱家驊氏の辞職により、院長代理を命ぜられた。一九五九年春、国家科学長期發展委員会は先生を人文系

の委員とした。秋、米国のフォード財団の援助を受け、招聘研究員となり、ハーヴァード大学で一年間研究された。一九六〇年七月、シアトルの中米科学會議に出席し、九月に帰国し、すぐに十月には中日韓東亜学術會議を開催された。その後、過労のために糖尿病と眼病を併発された。一九六三年、中華教育文化董事委員會の援助を得、中国上古史編纂委員會を設立し、主任委員に任ぜられ、上古史の編輯に従事された。しかしその後も萬家保先生と殷代の青銅器の研究を続けられた。一九六四年、「殷虚出土青銅觚形器之研究」、一九六六年、「殷虚出土青銅爵形器之研究」を出版し、一九六八年にはオーストラリア国立大学で講義され、一九六八年には「殷虚出土青銅單形器之研究」を出版し、一九七〇年「殷虚出土青銅鼎形器之研究」、一九七二年「殷虚出土伍拾叁件青銅容器之研究」を出版され、殷代文化に対しては、特別大きな貢献をなされた。

一九七三年十月二十日、心ならずも左腿を骨折し、歩行が不自由となられたが、糖尿病でもあったがため手術ができず、これ以後、常に通院されていた。しかし病をおして大著、英文の「殷虚発掘」(Anyang Excavation)を完成され、それは一九七七年、米国で出版された。この間も重要な會議があれば必ず杖を使って参加されていた。

一九七九年六月二十七日、体の変調を覚え、胃の中で出血

してゐるのではないかと危惧し、病院に往き検査をされたが、深刻なものではなく、帰宅して休養されていた。七月三十一日、再び体の調子が思わしくなく、医者のすすめにより、翌日病院に行き検査することになった。八月一日入院手続きをとりとうとしている時、にわかに関蔵発作が起り、ハイパート台風の吹き荒れる朝、九時三十分安らかに逝かれた。

夫人は陳啓華女士、一九七五年死去。長子光模、次子光周はともにすぐれた人物である。長女鳳徽は一九四四年、李荘にて、次女鶴徽は一九三九年、昆明にて死去された。ともに夭折された。

先生は終生文化のために努力をされ、學術のために奮闘をされ、前例、模範を創られ、國際的にも學術文化界の尊崇を受けてゐる。著書は十余編論文は二二〇余編、そのほかに翻譯・書評十余編あり、いづれも「李濟考古學論文集」に収載されてゐるが、左記に、次子光周先生の編した李濟先生の著作目録を略列する。

(筆者は中央研究院歷史語言研究所 研究院へ訳者註)

### 專著

- 一、一九二七 西陰村史前的遺存。北平、清華學校  
研究院叢書第三種。  
二、一九二八 The Formation of Chinese People:

An anthropological Inquiry. Cambridge, Harvard University Press.  
(日文訳、須山卓訳『支那民族の形成』生活社、一九四三、昭和一八年)

- 三、一九五六 殷虛器物甲編：陶器(上輯)。中央研究院歷史語言研究所中國考古報告集之二、小屯第三本。

- 四、一九五七 The Beginnings of Chinese Civilization: Three Lectures illustrated with Finds at Anyang (中國文明開始). Seattle, University of Washington Press.

- 五、一九六四 (中文訳、万家保訳『中國文明的開始』台灣商務印書館、一九六〇)  
殷虛出土青銅觚形器之研究下篇：花紋の比較。中央研究院歷史語言研究所中國考古報告集新編、古器物研究專刊第一本。

- 六、一九六六 殷虛出土青銅爵形器之研究下篇：青銅爵形器的形制花紋与銘文。中央研究院歷史語言研究所中國考古報告集

七、一九六七

新編、古器物研究專刊第二本。  
感旧錄。伝記文學叢書之十六。台北、伝記文學出版社。

八、一九六八

殷虛出土青銅斝形器之研究下篇、青銅斝形器的形制与花紋。中央研究院歷史語言研究所中國考古報告集新編、古器物研究專刊第三本。

九、一九七〇

殷虛出土青銅鼎形器之研究下篇、青銅鼎形器的形制与花紋。中央研究院歷史語言研究所中國考古報告集新編、古器物研究專刊第四本。  
歷史圈外。台北、萌芽出版社。

一〇、一九七二

殷虛出土伍拾參件青銅器之研究下篇、殷虛發掘出土伍拾參件青銅容器的形制和文飾之分析簡述及概論。中央研究院歷史語言研究所中國考古報告集新編、古器物研究專刊第五本。

一一、一九七七

李濟考古學論文集。台北、聯經出版事業公司。

一二、

Anyang Excavations, Seattle, University of Washington Press.

一、一九二五

幽蘭。清華學報卷二、期二、頁五七—三五七。

二、一九二六

The Bones of Szechang (新鄭的骨)。中國科學社會論文專刊卷三一。

三、一九二九

安陽發掘報告發刊語。中央研究院歷史語言研究所安陽發掘報告期一、頁一。

四、

小屯地面下情形分析初步。中央研究院歷史語言研究所安陽發掘報告期一、頁三七—三八。

五、

殷商陶器初論。中央研究院歷史語言研究所安陽發掘報告期一、頁四九—五八。

六、一九三〇

民國十八年秋季發掘殷墟之經過及其重要發現。中央研究院歷史語言研究所安陽發掘報告期二、頁二一九—二五二。

七、

小屯与仰韶。中央研究院歷史語言研究所安陽發掘報告期二、頁三三七—三四八。

八、

現代考古学与殷墟發掘。中央研究院歷史語言研究所安陽發掘報告期二、

論文及雜著

頁四〇五—四一〇。

九、一九三二

發掘龍山城子崖的理由及成績。山東省立圖書館季刊集一、期一。

一〇、

俯身葬。中央研究院歷史語言研究所安陽發掘報告期三、頁四四七—四八〇。

一一、

Archaeology. In: Symposium on Chinese Culture, edited by Sophia H. Chen Zen. Shanghai, China Institute of Pacific Relations. pp. 184-193.

一二、一九三三

殷墟銅器五種及其相關之問題。中央研究院歷史語言研究所集刊外編第一種：慶祝蔡元培先生六十五歲論文集上冊，頁七三—一〇四。

一三、

安陽最近發掘報告及六次工作之總估計。中央研究院歷史語言研究所安陽發掘報告期四、頁五五九—五七八。

一四、

安陽發掘報告編後語。中央研究院歷史語言研究所安陽發掘報告期四、頁七二九—七三三。

一五、一九三四

Summary of recent archaeological

Work in China. In: Proceedings of the Fifth Pacific Science Congress, Vol. IV, pp. 2815-2824.

中國考古學之過去與將來。東方雜誌卷三一、號七、頁一一—一七。

城子崖報告序、城子崖。中央研究院歷史語言研究所中國考古報告集之一、頁一一—一七。

一七、

(別刊、東方雜誌卷三一、號一、頁一一—一五)。

田野考古報告編輯大旨。中央研究院歷史語言研究所中國考古學報(原名田野考古報告)冊一、頁一一—二。

一八、一九三六

民族學發展之前途與比較法應用之限制。國立雲南大學社會科學學報卷一。

一九、一九四一

古物。中央日報全國美展特約論文。遠古石器淺說。國立中央博物院籌備處第一次專題展覽會。

二〇、

二〇、一九四三

(別刊、公論報、史地一二二期「說石器」一九五〇年二月)

二二、一九四四

博物館與科學教育。重慶中央廣播電台講辭。

(別刊、索子明故宮文物淺說——代序。一九五九)

二二、

小屯地面下的先殷文化層。中央研究院學術匯刊卷一、期二、頁一一—一四。

二四、一九四五

研究中國古玉問題的新資料。中央研究院歷史語言研究所六同別錄冊中、頁一一—三。

二五、一九四七

中國考古學報前言。中央研究院歷史語言研究所考古學報冊二、頁一一—二。

二六、一九四八

跋彥堂自序。殷虛文字甲編。中央研究院歷史語言研究所中國考古報告集之二。小屯第二本、頁一四—一六。

二七、

記小屯出土之青銅器。中央研究院歷史語言研究所中國考古學報冊三、頁一一—〇〇。

二八、

記小屯出土之青銅器——中篇——鋒刃器。中央研究院歷史語言研究所中國考古學報冊四(稿存上海)。

(別刊、國立台灣大學文史哲學報期四、頁一七九—二四〇。一九五二)

二九、一九五〇

瑞岩民族學調查初步報告——體質。台灣省文獻委員會文獻專刊卷一、期二、頁六九—七九。

三〇、

中國古器物學的新基礎。國立台灣大學文史哲學報期一、頁六三—七九。

三一、

子北出土青銅句兵分類圖解。中央研究院歷史語言研究所集刊本二二、頁一一—七。

三二、

中國民族之始。大陸雜誌卷一、期一、頁二—四。

三三、

(別刊、張其昀主編·边疆論文集、頁四六四—四六七。一九六六)

三四、

值得青年們效法的傅孟真先生。自由中國卷四、期一、頁一九。

三五、

(別刊、國立台灣大學傅故校長哀輓錄)

三六、

傅孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所

三六、

傳孟真先生領導的歷史語言研究所——幾個基本觀念及幾件重要工作的回顧。中央研究院歷史語言研究所傳所



- 長紀念特刊、頁一一—一九。  
中國史前文化。大陸雜誌卷二、期一、頁一一—五。
- 三六、 從人類學看文化（聯合國中國同志會第三十五次座談會講辭）。大陸雜誌卷三、期一一、頁二一—三二。
- 三七、 台大四十年年度新生體質測量報告前言。國立台灣大學校刊、期一五五。
- 三八、 殷虛有刃石器圖說。中央研究院歷史語言研究所集刊本二三（傅斯年先生紀念論文集下冊）、冊下、頁五二三—六一九。
- 三九、 小屯陶器資料之化學分析。國立台灣大學傳故校長斯年先生紀念論文集、頁一二三—一三八。
- 四〇、 關於台大考古人類學系之創設。台大文摘卷一、期四。
- 四一、 北京人的發現與研究之經過。大陸雜誌卷五、期七、一一—七。
- （別刊、中華文化復興月刊卷八、期五、頁一七一—二二。一九七五·遂耀東編著：拓墾者的画像。台北、中華文化復興月刊社。頁一〇九—一二八。一九七七）
- 四二、 北京人的體質與生活——北京人的發現與研究之經過下篇。大陸雜誌卷五、期一〇、頁一一—九。
- 四三、 考古人類學刊發刊詞。國立台灣大學考古人類學刊期一、頁一。
- 四四、 跪坐蹲踞與箕踞。中央研究院歷史語言研究所集刊本二四、頁二八三—三〇一。
- 四五、 關於在中國如何推進科學思想的幾個問題。自由中國卷九、期九、頁八一—一〇。
- （別刊、三民主義半月刊期一九（科學研究專号）頁一一六。一九五四）
- 四六、 太平洋科學會議的性質與成就。中國一週期一九一、頁一一—二。
- 四七、 一九五四 Importance of the Anyang Discoveries in Prefacing known Chinese History with a New Chapter. In: Free China Review, Vol. 4, No. 1, pp. 27-33.

(別刊、中央研究院院刊輯二、冊上、頁九一—一〇二。一九五五)

四八、

中國上古史之重建工作及其問題。民主評論卷五、期四、頁二一五。

四九、

太平洋科學會議。(聯合國中國同志會第八十八次座談會講辭)大陸雜誌卷八、期四、頁二八一—三二。

五〇、

從中國遠古史的幾個問題談起。四月二三日中央日報地區週刊八週年四〇〇期紀念。

五一、

台灣大學現行招生辦法之商榷。自由中國卷一〇、期九、頁九一—一三。

五二、

如何辦科學館。中國一週期二二一、頁一一二。

五三、

Notes on some metrical Characters of Calvaria of the Shang Dynasty excavated from Houchiachuang, Anyang, 中央研究院院刊輯一(慶祝朱家驊先生六十歲論文集)、頁五四九—五五八。

五四、一九五五

Diverse Backgrounds of the decorative Arts of the Yin Dynasty.

中央研究院院刊輯二、冊上、頁一一九—一二九。

(別刊、Proceedings of the Fourth Far-eastern Prehistory and the Anthropology Division of the Eighth Pacific Science Congresses Com-

bins, ed. Part I, First Fascicle, 1956, pp. 179-194. Quezon city, The National Research Council of the Philippines University of the Philippines.)

Studies of Hsiao-t'un Pottery: Yin and Pre-Yin. 中央研究院院刊輯二、冊上、頁一〇三—一一七。

論追求真理應該從認識自己身體做起。中央日報、八月五日。

對於丁文江所提倡的科學研究幾段回憶。自由中國卷一五、期五、頁七一—九。

(別刊、中央研究院院刊輯三(丁故總統事文江逝世廿週年紀念刊)、頁一五五—一六〇。一九五六)

- 五八、 試論中國文化的原始。中央日報學人  
期一、一〇月二日。  
(別刊、文史叢刊輯一、頁六一—二。  
一九五七)
- 五九、 Foreword to a Study of Pottery  
of the Yin and Pre-Yin Period.  
國立台灣大學考古人類學刊期八、頁  
一一五、七二—七六。  
人之初。中央日報學人期二、一二  
月一八日。
- 六〇、 殷虛白陶發展之程序。中央研究院歷  
史語言研究所集刊本二八(慶祝胡適  
先生六十五歲論文集)、冊下、頁八  
五三—八八二。
- 六一、 論「道森氏·晁人」案件及原始資料  
之鑒定與處理。現代學術季刊卷一、  
期二、頁一一—一三。
- 六二、 Pottery and Bronze of the Yin-  
Shang Period. 國立台灣大學考古人  
類學刊期九·一〇合刊、頁一一—六。  
(中文訊、陳奇祿節訊：殷商時代的  
陶器與銅器。同書、七一—九。)
- 六三、
- 六四、 Hunting Records, fannistic Re-  
mains and decorative Patterns from  
the archaeological Site of Anyang.  
國立台灣大學考古人類學刊期九·一  
〇合刊、頁一〇—一六。  
(中文訊、陳奇祿節訊：安陽遺址出  
土之狩獵卜辭·動物遺骸與裝飾文樣。  
同書、頁一七一—二〇〇)
- 六五、 安陽發掘之回顧。青年年會學術論文  
集、頁二三—二四〇。
- 六六、 由筭形演變所看見的小屯遺址與侯家  
莊墓葬之時代關係。中央研究院歷史  
語言研究所集刊本二九(慶祝趙元任  
先生六十五歲論文集)、冊下、頁八  
〇九—八一六。
- 六七、 殷虛建築遺存序。遺址的發現與發掘  
乙編：殷虛建築遺存。中央研究院歷  
史語言研究所中國考古報告集之三、  
小屯第一本、頁一一—四。
- 六八、 筭形八類及其文飾之演變。中央研究  
院歷史語言研究所集刊本三〇(歷史  
語言研究所三十週年紀念專号)、冊

- 六九 上，頁一一六八。  
 Examples of Pattern Dissolution from the archaeological Specimens of Anyang. In: *Artibus Asiae*, Vol. XXII, Nos. 1 & 2, pp. 138-142. New York, Institute of Fine Arts. 七六
- 七〇 文化沙漠。自由中國卷二二期一〇。頁一四一—一五〇。 七七
- 七一、一九六〇 東亞學術研究計畫委員會國際會議開會辭。國立台灣大學考古人類學刊期一五・一六合刊，頁一三九—一四一。 七八
- 七二、一九六一 我与中国考古工作。(李濟口述 李青來筆記)新時代創刊号，頁四二—四三。 七九
- 七三 Ancient Chinese Civilization. In: *Collier's Encyclopedia*, New York. 七九
- 七四、一九六二 再談中國上古史的重建問題。中央研究院歷史語言研究所集刊本三三，頁三五—一三七〇。 八〇
- (別刊，新時代卷二期二，頁三八。一九六二) 八〇
- 七五 Some anthropological Problems of China: Reconsidered. In: *Second Biennial Conference Proceedings, International Association of Historians of Asia*, pp. 1-12. 我在美國的大學生活(上)。  
 我在美國的大學生活(下)。  
 卷一，期五，頁一〇—一。 我在美國的<sup>(下)</sup>大學生活(下)。  
 卷一，期六，頁二五—二九。  
 (以上二篇別刊，大學生的修養第一輯，頁三一—五二。國立政治大學。一九六三) 一九六三
- Chinese People. 國立台灣大學考古人類學刊期一九・二〇合刊，頁一一〇。 一〇
- 侯家庄一〇〇一号大墓序。一〇〇一号大墓。中央研究院歷史語言研究所中國考古報告集之三，侯家庄第二本，上冊，頁一一三。 故院長胡適先生紀念論文集序。中央研究院歷史語言研究所集刊本三四(故院長胡適先生紀念論文集)，冊上，頁一一四。

- (別刊) 伝記文学卷二、期三、頁二三。一九六三)
- 八二、 我的記憶中的梅月涵先生。清華校友通訊新二期。
- 八二、 一九六三  
Foreword. In: *The Archaeology of ancient China*, by Kwang-chih chang. New Haven, Yale University Press, pp. v-vii.
- 八二、 一九六三  
(Zed. Kwang-chih chang: *The archaeology of ancient China*. New Haven, Yale University Press, 1968 pp. ix-xi.)
- 八三、 黑陶文化在中國上古史中所佔的地位。國立台灣大學考古人類學刊期二・二合刊、頁一一〇。
- 八四、 殷商時代裝飾藝術研究之一——比較觚形器的花紋所引起的幾個問題。中央研究院歷史語言研究所集刊本三四(故院長胡適先生紀念論文集)、冊下、頁六九九—七三九。
- 八五、 一九六四  
南陽董作賓先生與近代考古學。伝記文学卷四、期三、頁七一—一。
- 八六、 (別刊) 董作賓逝世三週年紀念集、頁一一一。一九六〇)
- 八六、 中國考古報告集新編古器物研究專刊發刊辭。中央研究院歷史語言研究所中國考古報告集新編、古器物研究專刊第一本、頁iii。
- 八七、 古器物研究專刊序。中央研究院歷史語言研究所中國考古報告集新編、古器物研究專刊第一本、頁v—x。
- 八八、 殷商時代青銅技術的第四種風格。中央研究院歷史語言研究所集刊本三五、頁三四三—三五二。
- 八九、 一九六五  
想像的歷史與真實的歷史之比較。(國立歷史博物館專題講辭) 國立歷史博物館史文物叢刊輯二、冊三。
- 九〇、 (別刊) 新時代卷五、期九、頁三一九。一九六五・中國一周期八〇四、頁三一五、期八〇五、頁三五。一九六五)
- 「北京人」的發現與研究及其所引起之問題。國立台灣大學文史哲學報期一四、頁一五—五九。

- 九一、一九六六 回憶中的蔣廷黻先生。伝記文学卷八、期一、頁二八—三〇。
- 九二、 如何研究中国青銅器——青銅器的六個方面（故宫博物院演講辭）。故宫博物院故宮季刊卷一、期一、頁一九。
- 九三、 大龜四版的故事。董作賓先生逝世三週年紀念集、頁一一—一五。
- 九四、 二十五年来之中央研究院。星島日報創刊廿五週年論文集。
- 九五、 關於、中美人文社会科学合作的一般問題和建議（中美人文社会科学合作會講辭）。靈輝訊、新時代卷六、期七、頁三一—九。
- 九六、一九六七 我的初學時代。伝記文学卷二一、期三、頁一一—一五。
- 九七、一九六七 紅色土時代的周口店文化。国立台湾大学文史哲學報期一六、頁九七—一五〇。
- 九八、一九六八 自由的初意。自由談卷一九、期四、頁七。
- 九九、 考古瑣談(一)——古物保存法頒佈後所  
 一〇〇、 引起的第一個問題。自由談卷一九、期五、頁一七—一八頁。  
 一〇一、 考古瑣談(二)——敦煌學的今昔。自由談卷一九、期六、頁一五—一六。  
 一〇二、 考古瑣談(三)——古生物得到中国法律的庇護。自由談卷一九、期八、頁一三一—一四。  
 一〇三、 考古瑣談(四)——牙的故事二則——中西學術界治學態度的一幅對照。自由談卷一九、期一〇、頁九—一〇。  
 一〇四、 考古瑣談(五)——史前考古學所研究的「人」和「自然環境」。自由談卷一九、期一一、頁一一—一二。  
 一〇五、 考古瑣談(六)——「滄海桑田」的考古學例証之二。自由談卷一九、期一二、頁七—八。  
 一〇六、 華北新石器時代文化的類別、分佈與編年。大陸雜誌卷三六、期四、頁一一—四。  
 Let the East and the West understand each Other without Pride and Prejudice. 思与言卷五、期五、

- 頁六四。
- 一〇七、一九六九  
考古瑣談(6)——魏敦瑞氏的「古今人表」之編製及其所引起的理論糾紛。
- 一〇八、  
自由談卷二〇、期一、頁七—八。
- 一〇九、  
考古瑣談(6)——有弁的荷謨。自由談卷二〇、期二、頁一—二。
- 一一〇、  
學的形成及其原始。中央研究院歷史語言研究所集刊三九(慶祝李方桂先生六十五歲論文集)、冊上、頁三三—三五〇。
- 一一一、  
殷商時代的歷史研究。中央月刊卷一、期四、頁一五—二五。
- 一一二、  
安陽發掘與中國古史問題。中央研究院歷史語言研究所集刊本四〇、冊下、頁九一—一九四四。
- 一一三、  
Racial History of the Chinese People. In: *Journal of the China Society*, Vol. VI, pp. 3-11.
- 一一四、  
試談治學方法。中央月刊卷二、期四、頁一五—二五。
- 一一五、  
The Tuan Fang Altar Set reexamined. In: *Metro-politan Museum Journal*, Vol. 3, pp. 51-72. New York, The Metropolitan Museum of Art.
- 一一六、  
科學運動的現階段及其展望。中央月刊卷三、期三、頁二四—二九。
- 一一七、  
中華民國所頒發的第一號採取古物執照。包遵彭先生紀念論文集、頁一—二。
- 一一八、  
Archaeological Studies in China. In: *Essays on the Sources for Chinese History*, ed. by Donald Leale, Colin Mackerras and Wang Gung Wu. Australian National University Press, Canberra. pp. 9-14.
- 一一九、  
An-yang. In: *Encyclopaedia Britannica*, 15th ed. pp. 1009-1011. Helen Hemingway Benton.
- 一二〇、  
中國地質學對現代中國社會人類科學的影響。地質卷二、期二、頁一—六。蔣公為最體貼人情的長者(我對蔣總統的懷念)。中央月刊卷八、期一、頁六一。

一一一、

殷虛出土青銅禮器的總檢討。中央研究院歷史語言研究所集刊本四七、分

四、頁七八三—八一一。

一一二、

殷虛出土的工業成績——三例。國立台灣大學文史哲學報期二五、頁一—

六四。

一一三、一九七七

对美国文化的幾點認識(美国文化与中美關係)演講(講辭)。中央研究院美國文化研究所·中美人文社會科學合作委員會合辦。

(別刊,中央日報,四月一六日)

六十年前的清華。清華校友通訊新六

三期(校慶專号),頁四—六。

(別刊,伝記文學卷三三,期六,頁

六七—六八。)

一二四、一九七八

甘肅史前人種說略。 Davidson

Black: Notes on the Physical

Characters of the prehistoric Kansu

Race. In: Memories of the Geo-

logical Survey of China, Series A,

No. 5.

一一二、

奉天沙鍋屯及河南仰韶村之古代人骨与近代華北人骨之比較。 Davidson

Black: The human skeletal Re-

mainis from the Sha Kuo T'ung

Cave Deposit in Comparison with

those from Yang Shao T's'ung and

with recent North China skeletal

Remains. In: Paleontologia Sinica,

Series D, Vol. I.

周口店歸積中一荷讓形的下臼齒。 Davidson Black: The lower Molar

Hominid Tooth from the Chou

Kou Tien Deposit. In: Paleontologia Sinica, Series D, Vol. VII.

Manchuria in History: A Summary (傅斯年:東北史綱英文節略。)

獅熊。(大陸雜誌卷一,期一,頁

八。)

Henry Breuil: Beyond the

Bounds of History, English translation by Mary E. Boyle. London: P.R. Gowthorn Ltd. 1949.

人類學。五十年來科學的進展。台

一、一九二五

Davidson Black: Notes on the Physical Characters of the prehistoric Kansu Race. In: Memories of the Geological Survey of China, Series A, No. 5.

五、一九五〇

六、一九五一

翻 訊



書評及介紹

北‘中央文物供應社’A.L. Kroeber :  
Anthropology. In : Scientific American (1950), Vol. 183, No. 3.

一、一九五〇

歷史圈外：介紹一本有關先史學的小書“Beyond the Bounds of History, by Henry Breuil, English Translation by Mary E. Boyle. London, P.R. Gawthorn Ltd. 1941.”大陸雜誌卷一，期八，頁四一六。

二、一九五三

譯介“Asia and North America transpacific Contacts. Assembled by Martin W. Smith. American Antiquity (1953), Vol. 18, No. 3, Part 2. The Society for American Archaeology.”國立台灣大學考古人類學刊期一，頁三十一—三十三。

三、一九五四

譯介“Studies in Chinese Thought (中國思想知之海峽)” ed. by Arthur F. Wright. Comparative Studies of Cultures and Civilizations, No. 1. The American Anthropological

四、一九五五

Association, Vol. 55, No. 5, Part 2, Memoir No. 75. December 1953, pp. xiv+317”國立台灣大學考古人類學刊期三，頁五五—五九。

五、一九五六

譯介“Science and Civilization in China (中國科學技術史)” by Joseph Needham F.R.S. With Research Assistance of Wang Ling. Vol. 1: Introductory Orientations. pp. xxxviii+318. Cambridge, at the University Press, 1954”國立台灣大學考古人類學刊期六，頁五十一—五六。

譯介“Chinese Bronze Age Weapons: the Werner Janning’s Collection in the Chinese National Palace Museum (中國銅器時代兵器：北平故宮博物院楊寧史旧藏三代青銅兵器圖錄)” by Max Lehr, Ann Arbor: The University of Michigan Press, 1956, pp. i-xiii; 1-233”國立台灣大學考古人類學刊期七，頁六九—七一。